

ものづくりは人づくり・つながりづくり～釧路ものづくりネスト

NPO法人 地域生活支援ネットワークサロン

地域生活支援ネットワークサロンは2000年に障がい児の親の会を前身として釧路市に誕生しました。

創設のきっかけは障がい児の親の会活動ですが、活動の中で障がい児の子育てだけでなく、地域の中には実に様々な暮らしにくさがあることに気付き、分野や制度に関係なく、生活当事者による市民活動団体として活動しているのが特徴です。

設立経過から障がい福祉の事業が主ですが、自立援助ホームや学習支援、制度外の若者支援、自殺防止のためのネットの居場所ポータルサイト「死にトリ」の運営など、幅広く社会課題に目を向けています。地域事情や制度、つながる人たちのニーズによって取り組む事業は常に変化をしてきましたが、ここ数年は虐待や抑圧など育ちの中で権利を守られなかった人たちへの社会参加の機会提供や心身の回復、自立促進を図る事業に力を入れています。

【若者たちにもものづくりの機会を】

そのような変遷へんせんの中で、2023年度に日本郵便年賀寄付金の助成を受けて行っている事業が「子ども若者のための暮らし創造体験拠点の整備と体験プログラムの提供（通称：釧路ものづくりネスト）」です。

この取り組みの趣旨は虐待や発達障がい等の理由で生活体験が少なかった子どもや若者たちに、暮らしに根差したものづくり体験の機会を提供することで、生活スキルの獲得を促し自立の土台をつくる手助けを行うものです。

ものづくり体験の必要性を感じたのは、ここ10年ほど力を入れて行ってきた、様々な生きづらさを抱える若者たちとの当事者活動の経験があります。

生きづらさを抱える子どもや若者たちは安心して過ごせる場を求めているので、まずは住まいの場の提供を行ってきました。そのことによってたくさんの若者たちがつながってくるようになりました。

その中で痛感したのは、子どもや若者たちの生活経験の乏しさとほでした。今は便利なデジタルに頼れば生活することはできますが、対人やコミュニケーションの

力や感性や体を使う機会が減り、メンタルの不調に陥おちいっている若者たちが多くいます。

一方、子どもや若者たちは、生活に根差した活動に興味を持っています。作物、食べ物、住むところ、日常の道具など物づくりや環境整備、販売活動の中で、新しい発見をしたり、それを通じて人と関わることができます。生まれ育った環境の中で生活経験を逸してしまっただ子どもたちや若者たちだけではなく、多様な子どもも大人も協働して、自らの力で生活を創り上げる経験をして、生活者である実感ができる拠点を地域に実現したいという思いで、釧路ものづくりネストの活動が企画されました。

【住むところを自分たちの手で】

この事業では古い一軒家を改修する作業からスタートしています。一人暮らしのお年寄りが、札幌に引越す際に、地域のために活用してもらいたいと20年以上借り受けてきたものです。長く子育て支援の拠点として活用してきましたが、老朽化等により活用方法を悩んでいました。そんな時、今回のものづくりの企画が持ち上がり、普段から若者たちを応援してくれている大工さんとのつながりを活用し、自分たちで改修してみようという構想になりました。

スローペースではありますが、少しずつ改修が進んでいます。10月22日には広い庭を活用して、敷地内にピザ窯をワークショップ形式でつくる予定です。何とか寒さが本格的になる前にはピザづくりのイベントも行えそうです。



2階スペースを改修

【食べ物をつくる】

住むところに並び私たちの生活に大切なのは食べ物です。法人では長年農園で野菜づくりを行ってきた経過もあり、農作業から農作物を活用した加工品づくり、調理などに取り組んでいます。

これまで、ブルーベリージャム、バジルペースト、ハッカ油、トマトソース、大葉のニンニクしょうゆ漬けなどをつくりました。つくる経験はすなわち食べる経験、つくったものを使う経験につながります。お金があれば何でも買えることが多くなりましたが、物ができあがるために時間も手間もかかること、どのように変化をして人の手がかかるのかなど過程を経験することができます。

野菜の収穫が多くなる時期には、大量の枝豆を夜遅くまで、ゆでる作業を延々とすることもありました。こうした作業はいろいろな人たちと自然に時間を過ごし、関わり合い、理解し合う機会と



バジルペーストでピザづくり

なります。得意なことや苦手なこと、好きなこと嫌いなことなど、お互いの理解が深まると同時に、協働を実感する貴重な時間になります。

【ものづくりは人をつなぐ】

住むところや食べ物の他に、手芸としてレジンのアクセサリーづくり、ウエスづくりをしました。レジンアクセサリーは職員のつながりで美容室に置いてもらい販売をしました。ウエスも大工さんのつながりで活用してもらう予定です。ミシンを使って、これからはペット用の服や散歩用のグッズをつくるなどの構想もあります。いずれも、必要としてくれる人や使ってくれる人とのつながりができ、自分たちの仕事が誰かのためになることを実感していきます。

小さな子どもたち向けにアイスクリームづくり、綿あめづくりなども行ってみました。若者たちが小さい子どもたちの喜ぶ姿を見て自分の役割を感じることができます。

8月には地元のFM局からのお誘いで、夏祭りイベントにブースを出しました。収穫した野菜の販売、綿あめづくり体験、レジンアクセサリー販売、われないシャボン玉づくり体験を行いました。圧倒的な人気は綿あめで100人以上の人たちが訪れました。イベントの経験は販売による売り上げがあるのでちょっとした商売体験にもなります。準備の大変さもありますが、充実の一日になりました。



イベントでわれないシャボン玉づくり

それ以外にも、法人の事業所から頼まれて木工でワゴンや掃除道具入れ、柵をつくったり、包丁研ぎが得意な若者が出張で包丁研ぎをしたり、連携している社会教育施設の芝生の手入れ作業を請け負ったり、できそうなことはいろいろとやっています。

ものづくりは単にものをつくるということにとどまらず、そこには必ず人とのつながりが広がり、自分の働きが誰かに循環していくこと、誰かの働きが自分につながっていることなど、人が互いに協力し合って社会が成り立っていることを実感する経験となります。子どもや若者たちにとっても貴重ですが、大人の私たちにとっても今の社会や地域、子どもたちのニーズを実感する貴重な機会となっています。

※ 当法人のサイト：<https://n-salon.org/>

※ 釧路ものづくりネストは、Instagramや活動の様子を伝えるラジオの紹介もあります。

<https://n-salon.org/services/monozukuri-nest/>